

漢字学習で読書力にもぐんと差がつく

以前、日本道路公団では、道路標識の表記に使う文字を決めるために「とうきょう」「TOKYO」「東京」の三種類の標識を作り、どの表記法がいちばん読み取りやすいか、実験してみたそうです。すると、読み取るのにかかった時間は、「とうきょう」0.7秒、「TOKYO」1.5秒に対し、「東京」は0.06秒と漢字を読み取る速さは圧倒的で、同じ内容の言葉をひらがなの10倍以上のスピードで正確に理解することができることが明らかになったのです。

文章でも、漢字かな交じり表記と、ひらがなだけで書かれたものでは、読むスピードが違ってきます。たとえば

「あすのあさはちじに、えきまえにしゅうごうしてください」

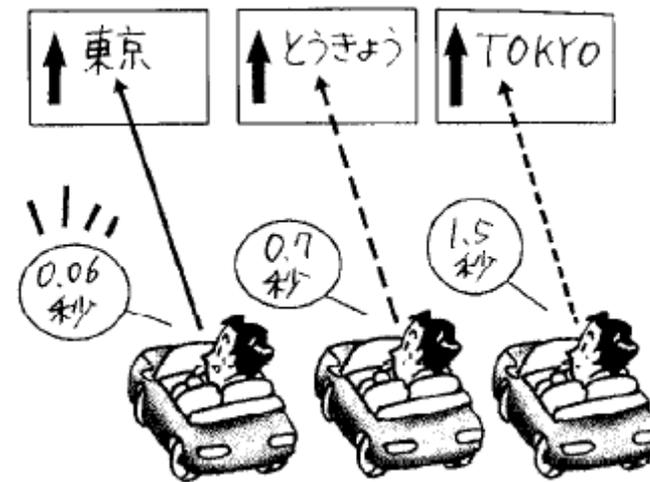
「明日の朝八時に、駅前に集合してください」

この二つの文で、どちらが早く、かつ正確に内容を読み取れるかは一目瞭然です。

そして、漢字かな交じり文の中で、主要な意味を表すのは漢字ですから、当然のことながら“漢字力”は“読書力”にもつながってきます。

ただ、漢字をたくさん知ってさえいれば、読書のスピードが速くなるかということ、実はそれだけではないのです。私自身もそうですが、文字をひらがなから覚えた人間というのは、まず頭の中で文字を発音に置き換え、その音によって言葉を想起する癖がついているため、音読するのと同じくらいのスピードでしか、文字を目で追うことができません。

ところが、最初から漢字で学習した子どもは、漢字を一瞬で読み取



漢字表記が圧倒的に読みやすい

る習慣が身につけていますから、音声としての言語よりもずっと早く目読することができるのです。

私の子どもは、二人ともひらがなより先に漢字を覚えて育ったのですが、まだ小字校に入

ったか入らないかという時期に、彼らが読んでいる本を後ろから目で追ってみたところ、すでに私の倍近いスピードで読んでいたのです。そして、後で内容を尋ねてみても、しっかりと答えられるのです。

三つ子の魂百までも」と言うように、はじめにひらがなから覚えた子どもは、大きくなってから努力しても、このような能力は身につけません。

こうした読書力の差というのは、たとえば学校の教科書の内容を理解する際などにも、はっきりと表われてきます。また、学校教育を離れても、本を読むという行為は、知識を深めたり人生を豊かにしたりするために欠かせないものです。

その意味で、幼児間に漢字学習で自然に身についた読書力は、お子さんの一生の財産になるといってもいいでしょう。